

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立淀中学校 学校協議会

1 総括についての評価

「運営に関する計画」の最終評価において、多くの項目で目標を達成、あるいは概ね達成していることを確認した。特に、保護者アンケートにおける「教職員の丁寧な対応」への肯定的な回答(約90%)は、学校への信頼の土台となっている。一方で、一部の学力調査結果や不登校出現率、生徒の読書習慣やSNS利用実態については、依然として課題が残る。学校協議会としては、これらの数値目標の背景にある「家庭での生活習慣」や「地域での評判」を重視し、次年度も改善に向けた支援を継続する。

2 年度目標(全市共通・学校園)ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

いじめの認知件数(19件)に対し、解消率100%を維持しており、組織的な対応が機能している点の評価する。また、不登校生徒への「不登校特例校」等の情報提供や別室登校(445回)などの柔軟な支援が継続されている。SNSの普及に伴い、動画視聴による脳への影響や、夜間のスマホ利用が生活リズムを崩している実態が懸念されている。家庭での規律が形骸化している現状に対し、学校側からより明確な基準やリスク発信を行う必要がある。過去の風評により進学を躊躇した保護者がいた一方で、入学後の丁寧な対応に満足しているという声もある。SNSでの情報拡散が早い現代において、学校の「今の姿」を正しく発信し、安心感を醸成することが不可欠である。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全国学力・学習状況調査において、数学などの一部教科で目標値を上回る成果が見られ、習熟度別授業やICT(1人1台端末)の活用が一定の成果を上げている。「家で勉強しない」という切実な課題が示されており、特にゲームやスマホに時間を奪われ、読書習慣に至らない生徒が多いことが指摘された。ネット検索で容易に答えに辿り着ける便利さの反面、自ら思考し、人に聞くとといった泥臭い学習プロセスが失われているのではないかとの危惧がある。近隣小学校(川北小)の学力向上の取り組みを参考に、小中一貫した規律ある学習姿勢の育成が求められる。また、部活動は生徒の意欲の源泉であるため、縮小させるのではなく、学習との両立を支えるマネジメントが必要である。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

保護者アンケートで「教職員の丁寧な対応」への肯定的な回答が目標(80%)を大きく上回る90.2%に達しており、教職員の真摯な姿勢が学校運営の根幹を支えている。デジタル化が進む一方で、親子の会話や対面でのコミュニケーションの減少による「心の距離」や「寂しさ」を案じる意見が出された。顔の見えない相手とのオンライン上の交流に依存しがちな生徒に対し、現実の人間関係を豊かにする「コミュニケーションを磨く訓練」が必要である。1人1台端末を単なる検索ツールとしてだけでなく、他者との協働や深い学びに繋げる教育環境の整備を継続されたい。また、教職員が引き続き高い意欲で生徒に向き合えるよう、校内環境の維持・向上に努めることを期待する。

3 今後の学校園の運営についての意見

過去のネガティブな噂により進学を躊躇する層がいる実態を踏まえ、現在の落ち着いた学校の様子や教職員の真摯な対応を、地域や小学校保護者へより積極的に広報してほしい。

スマホ・ゲームの規律が家庭で機能していない現状に対し、学校側から目標を明確に提示し、生徒が自己管理能力（セルフコントロール）を高められるよう支援することが望ましい。

近隣小学校での学力向上の成果や規律維持の好事例を共有し、中学校入学後のギャップ（中1ギャップ等）を防ぐシームレスな指導体制を構築していく必要がある。

ネット検索で答えを出すだけでなく、人との関わりの中で考えを深める活動を重視し、社会で生き抜くためのコミュニケーション力を育てることを重視したい。